



## IRP's Build Back Better 事例(2007年、バングラデシュ人民共和国) サイクロンなどの防災対策に関する日本の支援

2015年4月16日

### ○バングラデシュの現状○

バングラデシュは、日本の4割ほどの国土に約1億5千万人が暮らすアジア最貧国の一つであり、未だに人口の約3割が貧困層です。サイクロン、洪水、地震といった自然災害にも脆弱な国であり、気候変動による影響を受けやすい国でもあります。一方、2000年代には年率平均6%の堅調な経済成長を続けており、その人口規模と豊富で安価な労働力により、投資先・市場としても近年注目されています。日本政府は、2021年までに中所得国化するというバングラデシュ政府の目標の実現を支援するため、持続可能な経済成長の実現と貧困からの脱却を目指した支援を行っています。

### ○バングラデシュのサイクロン被害および対策○

2007年11月には最大瞬間風速60m以上のサイクロン「シドル」(SIDR)がバングラデシュを直撃し、バングラデシュ南西沿岸部を中心に広範囲の地域に被害をもたらしました。このサイクロンによる死者は4000人にのぼりましたが、これまでバングラデシュは1970年には約30万人、1991年には約14万人の死者を出したサイクロン被害を受けてきました。この被害の経験から、特に、1991年以降、日本政府ならびにJICA等の支援を受けながらサイクロンシェルターの建設、早期警戒システムの整備、河川堤防の整備などの防災対策が進められてきました。

早期警戒システムについては、1991年のサイクロン被害の教訓や、日本政府・JICA等の支援により、バングラデシュ政府や赤新月社主導の警報プログラムが整備されており、警報は2007年の「シドル」の際、来襲の2、3日前には中央政府から市町村レベル、住民レベルにまで伝達されており、さらに当日の午後にも伝達されていました。

1991年のサイクロン被害以降、沿岸部を中心にサイクロン避難シェルターが約2,000箇所設置されました。また、沿岸部の海岸沿いには土盛りの堤防(高さ5~6m程度)が設置されており、これによる高潮被害による被害の抑止効果もあったと考えられています。

### ○Build Back Better ポイント○

2007年の「シドル」は1970年のサイクロンに比べると勢力が強く同様のコースを辿ったにもかかわらず、死者数は大幅に減少しました。このことは、日本における風水害の取り組み、そして日本政府・JICAによる支援効果の絶大さを示している。同国の防災担当をはじめとして同国の防災担当をはじめとして閣僚レベル自身が各種国際会議において言及しており支援効果の絶大さを示しています。



【写真】多目的サイクロンシェルター

### ○参照○

独立行政法人 国際協力機構 (JICA) ホームページ (<http://www.jica.go.jp/bangladesh/>)